

WebFOCUS 簡易インストールガイド for Linux Version 8.2.07.28

このマニュアルでは、WebFOCUS for Linux 8.2.07.28 と WebFOCUS App Studio 8.2.07.28 のインストール・構成のために必要な作業手順を記載しています。

また、すでにインストールされている WebFOCUS for Linux 8.2.06 および 8.2.07 に対して、バージョン 8.2.07.28 の適用のため、WebFOCUS Reporting Server の更新インストール、WebFOCUS Client の更新インストール、および追加設定のために必要な作業手順を記載しています。

必ずご一読の上、必要なトピックを選択し、以下手順に従ってインストールを行ってください。

トピック

対象ユーザ

- | | |
|--|--|
| ☐ WebFOCUS Reporting Server の新規インストール | ✓ 新規インストールユーザ |
| ☐ WebFOCUS Client の新規インストール | ✓ 新規インストールユーザ |
| ☐ WebFOCUS Reporting Server の更新インストール | ✓ 更新インストールユーザ |
| ☐ WebFOCUS Client の更新インストール | ✓ 更新インストールユーザ |
| ☐ サーバプロセスの起動停止 | ✓ すべてのユーザ |
| ☐ Tomcat AJP ポートの有効化 | ✓ WebFOCUS を Web サーバ + Tomcat 構成で利用するユーザ |
| ☐ 通貨記号と日付の日本語表示設定 | ✓ すべてのユーザ |
| ☐ WebFOCUS の Unicode 構成 | ✓ WebFOCUS を Unicode 構成で利用するユーザ |
| ☐ ReportCaster の Unicode 構成 | ✓ ReportCaster を Unicode 環境で使用するユーザ |
| ☐ Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成 | ✓ Resource Analyzer 利用ユーザ |
| ☐ オンラインヘルプの構成 | ✓ すべてのユーザ |

-
- | | |
|---------------------------------|-----------------------------|
| ❑ Hyperstage の無効化 | ✓ 新規インストールユーザ |
| ❑ 既存コンテンツのインデックス化 | ✓ 更新インストールユーザ |
| ❑ Java 更新後の設定変更 | ✓ インストール後に Java を更新したユーザ |
| ❑ WebFOCUS App Studio の新規インストール | ✓ すべてのユーザ（App Studio 利用ユーザ） |

WebFOCUS Reporting Server の新規インストール

【事前確認】

1. WebFOCUS をインストールするユーザをご準備ください。

※ WebFOCUS のインストールは、root 以外のユーザで実施します。

2. インストールに必要なモジュールを、WebFOCUS をインストールするユーザがアクセスできるディレクトリにコピーします。

例 : /<directory>/tmp/

【WebFOCUS Reporting Server インストールモジュール】

※ サーバの Kernel バージョンに適したモジュールをご利用ください。

- Kernel-2.6.32 の場合 :

DISK1: IBI/64bit/Server/Kernel-2.6.32/TIB_wf-rs_8207.28.07_linux26_x86_64.tar

- Kernel-3.10 の場合 :

DISK2: IBI/64bit/Server/Kernel-3.10.0/TIB_wf-rs_8207.28.07_linux310_x86_64.tar

- Kernel-4.18 の場合 :

DISK2: IBI/64bit/Server/Kernel-4.18.0/TIB_wf-rs_8207.28.07_linux418_x86_64.tar

【WebFOCUS Client インストールモジュール】

- DISK1: IBI/64bit/Client/TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin

3. Java バージョン 8 または Java バージョン 11 をインストールします。

※ メディアには、AdoptOpenJDK 1.8.0_292 のインストールモジュールが同梱されています。

【Java インストールモジュール】

- DISK1: JAVA/OpenJDK8U-jdk_x64_linux_hotspot_8u292b10.tar.gz

4. 環境変数を設定します。

次の環境変数に、インストールした Java のパスを設定します。

例 : \$ export JAVA_HOME=/<directory>/ibi/java/jdk8u292-b10/jre

\$ export JDK_HOME=/<directory>/ibi/java/jdk8u292-b10/jre

\$ export PATH=\$JAVA_HOME/bin:\$JDK_HOME:\$PATH:\$HOME/bin

次の環境変数に、使用する文字セットを設定します。

例 : `$ export LANG=ja_JP.UTF-8` (※UTF-8 の場合)
`$ export LANG=ja_JP.SJIS` (※Shift-JIS の場合)

5. WebFOCUS のインストールでは、[ulimit] の同時にオープンできるファイル数を 8192 に設定する必要があります。次のように設定します。

例 : `$ ulimit -n 8192`

【手順】 ※以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容や環境により表示が異なることがあります。

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server のインストールを行ってください。

1. WebFOCUS をインストールするユーザで Linux 環境にログインします。
2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動し、モジュールを展開します。

例 : `$ cd /<directory>/tmp`
`$ tar -xvf TIB_wf-rs_8207.28.07_linux26_x86_64.tar`

3. インストールモジュールへの権限を付与します。

例 : `$ chmod 755 inu.out iserver.tar isetup version.cfg`

4. 保護マスクの設定をします。

例 : `$ umask 022`

5. インストールファイル「isetup」をフルパスで指定して実行します。

例 : `$ /<directory>/tmp/isetup`

6. 次のメッセージが表示されますので、「1」を入力し Enter キーを押します。

Select an option:

1. **Install and Configure**
2. Add Additional Configuration Instance
3. Refresh Installation (Reinstall, Keep Configurations)
4. Install Debuggables to the Installation Directory
5. View Installation Notes

7. インストールファイルのフルパスを確認し、問題がなければ Enter キーを押します。

Please enter the full path name of the media for the product
(Default=/`<directory>/tmp/iserver.tar`)
Please supply media or **<Enter>** :

8. 内部サーバセキュリティプロバイダのサーバ管理者 ID を入力します。

Enter credentials for the server's internal security provider (PTH), the server's default start up mode.
Enter the Server Administrator ID
(Default=svradmin) : **admin**

-
9. 内部サーバセキュリティプロバイダのサーバ管理者パスワードを入力します（パスワードは表示されません）。

Enter the Administrator Password :

10. 次のメッセージが表示されます。Enter キーを押します。

Enter Hyperstage ServerMainHeapSize :

11. サーバ環境変数およびポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は「Y」を、使用しない場合は「N」を指定して Enter キーを押します。「N」の場合は、使用する値を指定します。

Please review the default settings.

EDAHOME = /<directory>/ibi/srv82/home
EDACONF = /<directory>/ibi/srv82/wfs
EDAPRFU = /<directory>/ibi/profiles
APPROOT = /<directory>/ibi/apps
HYPG_DATA = /<directory>/ibi/HyperstagePG
HOMEAPPS = /<directory>/ibi/homeapps
HTTP_BASE_PORT = 8121

If you are satisfied with the default settings you may proceed to final confirmation else you will be prompted for individual values.

Proceed with defaults? (Y/N Default=Y) : **Y/N**

12. インストール情報が表示されます。内容の確認後、問題がなければ「Y」を入力し、Enter キーを押してインストールを開始します。

13. インストールが完了すると次のメッセージが表示されます。

ISETUP: Installation Step completed

14. 以上で WebFOCUS Reporting Server のインストールは完了です。ここではプロセスを起動しないため、「N」を入力し、Enter キーを押します。

Would you like to start the Server Workspace (Y/N Default=Y)? : **N**

以上で WebFOCUS Reporting Server のインストールは終了です。

WebFOCUS Client の新規インストール

【手順】 ※以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容により表示が異なることがあります。

以下の手順で WebFOCUS Client をインストールします。

1. WebFOCUS を Reporting Server をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。
2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動します。
3. インストールモジュールへの権限を付与します。

例 : `$ chmod 755 TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin`

4. インストーラ「TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin」を実行します。

例 : `$ ./TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin -i console`

5. インストールに関するメッセージが表示されます。Enter キーを押して表示を進めます。

Welcome to WebFOCUS 8.2

InstallAnywhere will guide you through the installation of WebFOCUS 8.2.
It is strongly recommended that you quit all programs before continuing with this installation.
Respond to each prompt to proceed to the next step in the installation. If you want to change something on a previous step, type 'back'.
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

6. ライセンス契約の内容が表示されます。ライセンス契約の最後まで進む場合は「0」を、ライセンス契約の内容を画面上で確認する場合は「0 以外」を入力し、Enter キーを押します。

ENTER VALUE OF '0' AND ENTER TO ADVANCE TO END OR ANY OTHER VALUE AND ENTER
TO CONTINUE TO READ LICENSE AGREEMENT: 0

7. ライセンス契約の同意の確認メッセージが表示されます。同意する場合は「Y」を入力し、Enter キーを押します。

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N): Y

8. インストールタイプが表示されます。完全インストールの場合は「2」を入力し、Enter キーを押します。

Choose Install Type

1 - Update

2 - Full Install

Select the type of install that best suits your needs: 2

9. インストールセットが表示されます。標準インストールの場合は「1」、カスタムインストールの場合は「2」を入力して、Enter キーを押します。

Please choose the Install Set to be installed by the installer.

-> 1- Typical

2- Custom

ENTER THE NUMBER FOR THE INSTALL SET, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT

: 1/2

10. WebFOCUS Client のインストールディレクトリを確認し、問題なければ Enter キーを押します。

Please choose a destination folder for this installation.
There should not be any space in the path.
Destination Folder (Default: /<directory>/ibi/WebFOCUS82):

11. インストールするコンポーネントを選択し、必要情報を入力します。

- a. WebFOCUS をインストールするには「Y」を入力し、Enter キーを押します。

Install WebFOCUS (Y/N): **Y**

- b. アプリケーションディレクトリのデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合はディレクトリを指定し Enter キーを押します。

Please choose a destination folder for applications.
(Default: /<directory>/ibi/apps):

- c. メールサーバのホスト名を指定します。

Mail Server Host Name: **localhost**

- d. ReportCaster Distribution Server を同一マシンにインストールするには「Y」、インストールしない場合は「N」を入力し、Enter キーを押します。

Install ReportCaster Distribution Server (Y/N): **Y/N**

- e. Tomcat をインストールするには「Y」、インストールを省略するには「N」を入力し、Enter キーを押します。Tomcat をインストールする場合は、インストール先ディレクトリの入力が必要です。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合はディレクトリを指定し Enter キーを押します。

Install and Configure Tomcat (Y/N): **Y/N**

Tomcat installation folder (Default: /<directory>/ibi/tomcat):

- f. Derby をインストールするには「Y」、既存のデータベースで構成する場合は「N」を入力し、Enter キーを押します。Derby をインストールする場合は、インストール先ディレクトリの入力が必要です。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合はディレクトリを指定し Enter キーを押します。その後、Derby のユーザ ID とパスワードを入力します。

Install Derby (Y/N): **Y/N**

Derby installation folder (Default: /<directory>/ibi/derby):

- ① Derby のユーザ ID を入力して Enter キーを押します。

User Id: (Default: webfocus):

- ② 続けてパスワードを入力し、Enter キーを押します。(値は表示されません)

Password <DEFAULT: *****>:

- g. 既存のデータベースで構成する場合は、サポートされているデータベースのリストが表示されます。使用するデータベースの番号を指定し Enter キーを押します。

1 - Apache Derby
2 - Db2
3 - MYSQL
4 - Microsoft SQL Server
5 - Oracle
6 - Other DB

- h. WebFOCUS リポジトリを構成するには「Y」、構成しない場合は「N」を入力し、Enter キーを押します。

Do you want to create WebFOCUS Repository (Will not drop existing tables)
(Y/N): **Y/N**

-
- i. g で Oracle を指定した場合、以下の設定のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。
- DB Server Node: Oracle Database Server のホスト名または IP アドレス
Port: (Default: 1521): Oracle Database Server のリスナポート番号
User Id: 通信に使用するユーザ ID
Password: ユーザ ID のパスワード
ORASID: Oracle SID
JDBC Driver: (Default: oracle.jdbc.OracleDriver): JDBC Driver
JDBC Path: : jar ファイル名を含めた Oracle JDBC ドライバへの完全修飾パス
- j. WebFOCUS 管理者 ID を入力します。
- Please enter your WebFOCUS administrator credentials
User name: **admin**
- k. 続けてパスワードを入力し、Enter キーを押します。（値は表示されません）
- Password:
12. 高度な設定が表示されます。最初にコンテキストルートが表示されます。内容の確認後 Enter キーを押します。
- ※ 高度な設定パラメータに誤りがある場合は、「BACK」と入力して設定値を再入力します。
- Advanced Configuration

WebFOCUS Application Context: (Default: ibi_apps):
13. Reporting Server のホスト名のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。
- WebFOCUS Reporting Server Host: (Default: localhost):
14. Reporting Server のポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。
- WebFOCUS Reporting Server Port: (Default: 8120):
15. Search サーバの Server のポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。
- Search Server Port: (Default: 8983):
16. ReportCaster Distribution Server のホスト名のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。
- Distribution Server Host: (Default: localhost):
17. ReportCaster Distribution Server のポート番号のデフォルト値が表示されます。デフォルト値を使用する場合は何も指定せず、使用しない場合は使用する値を指定し Enter キーを押します。
- Distribution Server Port: (Default: 8200):
18. ReportCaster を起動する場合は「Y」を、起動しない場合は「N」を指定し Enter キーを押します。
- Start Distribution Server (Y/N): **Y/N**
19. Tomcat をインストールする場合、以下の内容が表示されます。内容の確認後 Enter キーを押します。
- Tomcat HTTP Port: (Default: 8080):
Tomcat Server Shutdown Port: (Default: 8005):
Tomcat AJP Port: (Default: 8009):
20. Derby をインストールする場合、以下の内容が表示されます。内容の確認後 Enter キーを押します。
- Database Name: (Default: WebFOCUS82):
Port: (Default: 1527):

21. インストール前サマリーが表示されます。内容の確認後 Enter キーを押してインストールを開始します。

Pre-Installation Summary

Please Review the Following Before Continuing:

Product Name:
WebFOCUS82

Install WebFOCUS:
Yes; WebFOCUS Folder: /<directory>/ibi/WebFOCUS82; Apps Folder:
/<directory>/ibi/apps

Install Report Caster:
Yes

Install Tomcat:
Yes; Apache Tomcat 9.0.48; Ports: 8080, 8009, 8005; Tomcat Folder:
/<directory>/ibi/tomcat

Install Derby:
Yes; Port: 1527; Derby Folder: /<directory>/ibi/derby

Path to Java:
Java: 1.8.0_292; Java Home: /<directory>/ibi/java/jdk8u292-b10

Configuration of WebFOCUS:
Server: localhost; Port: 8080

Configuration of Distribution Server:
Server: localhost; Port: 8200

Configuration of Reporting Server:
Server: localhost; Port: 8120

Configuration of Database:
Database: Apache Derby; Port: 1527; Url:
jdbc:derby://127.0.0.1:1527/WebFOCUS82;create=true

Configuration of Tomcat:
Ports: 8080, 8009, 8005; Tomcat Folder: /<directory>/ibi/tomcat

Configuration of Context Roots and Alias:
Application Context: ibi_apps

Configuration of Search Server:
Server: localhost; Port: 8983

Configuration of Mail Host:
localhost

Disk Space Information (for Installation Target):
Required: 2,226,121,285 Bytes
Available: 39,042,359,296 Bytes

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

22. インストール中は次の画面が表示されます。

Installing...

[=====|=====|=====]
=|=====]

Checking port status of ...

It may take a moment

※この後もメッセージは続きます

23. インストールが完了後、Enter キーを押して終了します。

Installation Complete

Congratulations. WebFOCUS 8.2 has been successfully installed to:

/<directory>/ibi/WebFOCUS82

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

以上で WebFOCUS Client のインストールは終了です。

WebFOCUS の利用を開始するには、各サーバプロセスを起動します。起動するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

WebFOCUS Reporting Server の更新インストール

【事前確認】

1. インストールに必要なモジュールを、WebFOCUS インストールユーザがアクセスできるディレクトリにコピーします。

例 : /<directory>/tmp/

【WebFOCUS Reporting Server インストールモジュール】

※サーバの Kernel バージョンに適したモジュールをご利用ください。

- Kernel-2.6.32 の場合 :

DISK1: IBI/64bit/Server/Kernel-2.6.32/TIB_wf-rs_8207.28.07_linux26_x86_64.tar

- Kernel-3.10.0 の場合 :

DISK2: IBI/64bit/Server/Kernel-3.10.0/TIB_wf-rs_8207.28.07_linux310_x86_64.tar

- Kernel-4.18 の場合 :

DISK2: IBI/64bit/Server/Kernel-4.18.0/TIB_wf-rs_8207.28.07_linux418_x86_64.tar

【WebFOCUS Client インストールモジュール】

- DISK1: IBI/64bit/Client/TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin

2. 更新インストールをする前に、WebFOCUS Reporting Server、WebFOCUS Client のインストールディレクトリをご確認ください。

【WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ】

例 : /<directory>/ibi/srv82

【WebFOCUS Client インストールディレクトリ】

例 : /<directory>/ibi/WebFOCUS82

3. 更新インストールをする前に、導入時に WebFOCUS をインストールしたユーザをご確認ください。
4. 更新インストールをする前に、リポジトリサーバ以外の各サーバプロセスを停止します。停止するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

【手順】 ※以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容により表示が異なることがあります。

以下の手順で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールを行ってください。

1. WebFOCUS をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。

2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動し、モジュールを展開します。

```
例： $ cd /<directory>/tmp
      $ tar -xvf TIB_wf-rs_8207.28.07_linux26_x86_64.tar
```

3. インストールモジュールへの権限を付与します。

```
例： $ chmod 755 inu.out iserver.tar isetup version.cfg
```

4. 保護マスクの設定をします。

```
例： $ umask 022
```

5. インストールファイル「isetup」をフルパスで指定して実行します。

```
例： $ /<directory>/tmp/isetup
```

6. 次のメッセージが表示されますので、「3」を入力し Enter キーを押します。

```
Select an option:
1. Install and Configure
2. Add Additional Configuration Instance
3. Refresh Installation (Reinstall, Keep Configurations)
4. Install Debuggables to the Installation Directory
5. View Installation Notes
```

7. インストールファイルのフルパスを確認し、問題がなければ Enter キーを押します。

```
Please enter the full path name of the media for the product
(Default= /<directory>/tmp/iserver.tar)
Please supply media or <Enter> :
```

8. WebFOCUS Reporting Server のホームディレクトリが表示されるため、確認の上 Enter キーを押します。

```
Enter the EDAHOME directory where the product was installed
(Default= /<directory>/ibi/srv82/home)
Please supply location or <Enter> :
```

9. 更新情報が表示されます。内容の確認後、問題がなければ「Y」を入力し、Enter キーを押してインストールを開始します。

10. インストールが完了すると次のメッセージが表示されます。

```
 ISETUP: Installation Step completed
```

以上で WebFOCUS Reporting Server の更新インストールは終了です。

WebFOCUS Client の更新インストール

【手順】 ※以下に記載しているメッセージは表示例です。インストール内容により表示が異なることがあります。

以下の手順で WebFOCUS Client を更新インストールします。

1. WebFOCUS をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。
2. インストールモジュールをコピーしたディレクトリに移動します。
3. インストールモジュールへの権限を付与します。

例 : `$ chmod 755 TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin`

4. インストーラ「TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin」を実行します。

例 : `$ ./TIB_wf-wf_8207.28.07_unix_64.bin -i console`

5. ライセンス契約に関するメッセージが表示されます。Enter キーを押して表示を進めます。

Welcome to WebFOCUS 8.2

InstallAnywhere will guide you through the installation of WebFOCUS 8.2.
It is strongly recommended that you quit all programs before continuing with this installation.
Respond to each prompt to proceed to the next step in the installation. If you want to change something on a previous step, type 'back'.
You may cancel this installation at any time by typing 'quit'.
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

6. ライセンス契約の内容が表示されます。ライセンス契約の最後まで進む場合は「0」を、ライセンス契約の内容を画面上で確認する場合は「0 以外」を入力し、Enter キーを押します。

ENTER VALUE OF '0' AND ENTER TO ADVANCE TO END OR ANY OTHER VALUE AND ENTER
TO CONTINUE TO READ LICENSE AGREEMENT: 0

7. ライセンス契約の同意の確認メッセージが表示されます。同意する場合は「Y」を入力し、Enter キーを押します。

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N): Y

8. インストールタイプが表示されます。更新インストールの場合は「1」を入力し、Enter キーを押します。

Choose Install Type

1 - Update

2 - Full Install

Select the type of install that best suits your needs: 1

9. WebFOCUS Client のインストールディレクトリを入力し、Enter キーを押します。

Please enter path to existing install you want to update:
/<directory>/ibi/WebFOCUS82

10. WebFOCUS 管理者 ID を入力して Enter キーを押します。

Please enter your WebFOCUS administrator credentials
User name: admin

11. 続けてパスワードを入力し、Enter キーを押します。（値は表示されません）

Password:

12. インストール前サマリーが表示されます。内容の確認後 Enter キーを押してインストールを開始します。

Pre-Installation Summary

Please Review the Following Before Continuing:

Install Folder:

/<directory>/ibi/WebFOCUS82

update from

8206.**

update to

8207.28

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

13. 更新インストール中は次の画面が表示されます。

Installing...

[=====|=====|=====]
=|=====]

Checking port status of WebFOCUS ReportCaster WF82

It may take a moment

※この後もメッセージは続きます

14. インストールが完了後、Enter キーを押して終了します。

Installation Complete

Congratulations. WebFOCUS 8.2 has been successfully installed to:

/<directory>/ibi/WebFOCUS82

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

以上で WebFOCUS Client の更新インストールは終了です。

WebFOCUS の利用を開始するには、更新インストール前に停止した各サーバプロセスを起動します。起動するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

サーバプロセスの起動停止

【サーバプロセスの起動】 WebFOCUS を開始するには、サーバプロセスを次の順序で起動する必要があります。

1. Search Server

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS82/Solr/start_solr_linux.sh`

2. リポジトリサーバ

例 : `$ nohup /<directory>/ibi/derby/bin/start.sh &`

3. Application Server

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh`

4. Distribution Server

例 : `$ nohup /<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/schbkr &`

5. Reporting Server

例 : `$ /<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edastart -start`

【サーバプロセスの停止】 WebFOCUS を停止するには、サーバプロセスを次の順序で停止する必要があります。

1. Search Server

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS82/Solr/stop_solr_linux.sh`

2. Application Server

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh`

3. Distribution Server

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/stopit`

4. リポジトリサーバ

例 : `$ /<directory>/ibi/derby/bin/stop.sh`

5. Reporting Server

例 : `$ /<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edastart -stop`

【注意事項】

8.2.07 から、WebFOCUS 検索機能として Search Server が追加され、Solr が使用されるようになり、インストール時に自動構成されます。このため、WebFOCUS ご利用時には Search Server (Solr) プロセスの起動が必要となります。

Search Server プロセスの起動時には、プロセスを起動するユーザが同時にオープンできるファイル数、および、実行可能なユーザープロセスの最大数として 65000 が推奨されています。ご利用環境の設定値は、以下のコマンドで確認できます。

例 : `$ ulimit -n` (同時にオープンできるファイル数の確認)
`$ ulimit -u` (実行可能なユーザープロセスの最大数の確認)

この推奨値を満たさない場合、Search Server プロセスの起動時に以下のようなワーニングが出力されます。

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS82/Solr/start_solr_linux.sh` (起動コマンド)

```
*** [WARN] *** Your open file limit is currently 1024.  
It should be set to 65000 to avoid operational disruption.  
If you no longer wish to see this warning, set SOLR_ULIMIT_CHECKS to false in your  
profile or solr.in.sh  
*** [WARN] *** Your Max Processes Limit is currently 4096.  
It should be set to 65000 to avoid operational disruption.  
If you no longer wish to see this warning, set SOLR_ULIMIT_CHECKS to false in your  
profile or solr.in.sh
```

Tomcat AJP ポートの有効化

Tomcat スタンドアロン構成の場合はこの手順は必要ありません。

WebFOCUS を Apache HTTP Server などの Web サーバ + Tomcat 構成で利用する場合には、Tomcat で AJP Connection ポート（8009）を有効化しておく必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

Tomcat インストールディレクトリ:

例： /<directory>/ibi/tomcat/

1. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

/<directory>/ibi/tomcat/conf/server.xml

2. AJP Connection ポート（8009）のコメントアウト指定を削除し、有効化します。

Connector protocol="AJP/1.3"の前後の <!-- と --> がコメントアウトの指定です
<!--の行と、-->の行を削除してください

指定例：

```
<Connector protocol="AJP/1.3"
    address="localhost"
    port="8009"
    redirectPort="8443"
    secretRequired="false"
    allowedRequestAttributesPattern=".*"
    maxPostSize="-1" />
```

3. 設定後、ファイルを保存して閉じます。

以上で Tomcat AJP ポートの有効化は終了です。

通貨記号と日付の日本語表示設定

通貨記号(円)の設定、日付の日本語表示設定

1. WebFOCUS Reporting Server のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edastart -start`

2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明 :

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[サーバプロファイル - edasprof.prf]を右クリックし、[編集]を選択します。
4. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の 2 行の SET コマンドを指定し、[保存]ボタンをクリックします。

`SET CURRSYMB = JPY`

`SET DATEOUTPUT=LOCALIZED`

補足 :

OS のシステムロケールが日本語に設定されている場合に WebFOCUS Reporting Server のインストール時に[システムロケールを基準に NLS 地域設定を構成]を選択すると以下の設定が自動で設定されます。

`SET LANGUAGE=JAPANESE`

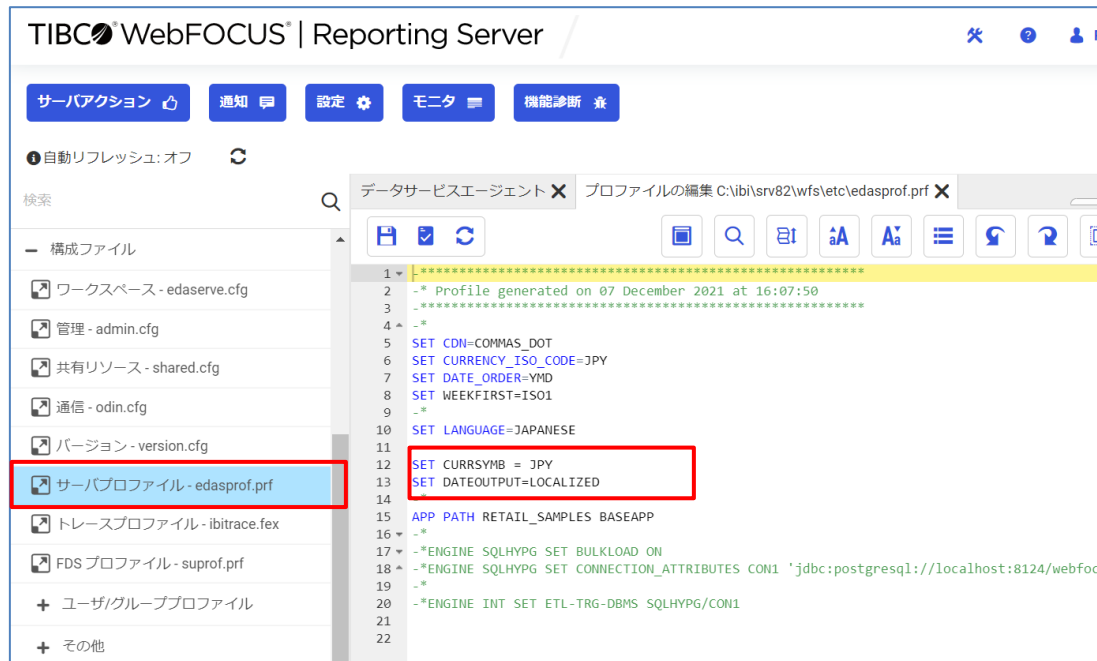
`SET CDN=COMMAS_DOT`

`SET CURRENCY_ISO_CODE=JPY`

`SET DATE_ORDER=YMD`

`SET WEEKFIRST=ISO1`

サーバプロファイル - edasprof.prf に上記の設定が無い場合は、上記の SET コマンドを指定してください。



以上で通貨記号と日付の日本語表示設定は終了です。

WebFOCUS の Unicode 構成

【事前確認】

WebFOCUS を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

【手順】

WebFOCUS Reporting Server の CODE_PAGE の変更

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 上部のツールメニューから[ワークスペース]を選択し、画面上部の [設定] - [LOCALE] - [構成ウィザード]を選択します。

3. CODE_PAGE プルダウンリストから[65001-Unicode(UTF-8)]を選択します。

4. [NLS ファイルを再作成/保存してサーバを再起動]をクリックします。



WebFOCUS Client の CODE_PAGE の変更

1. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。

http://hostname:port/ibi_apps/admin

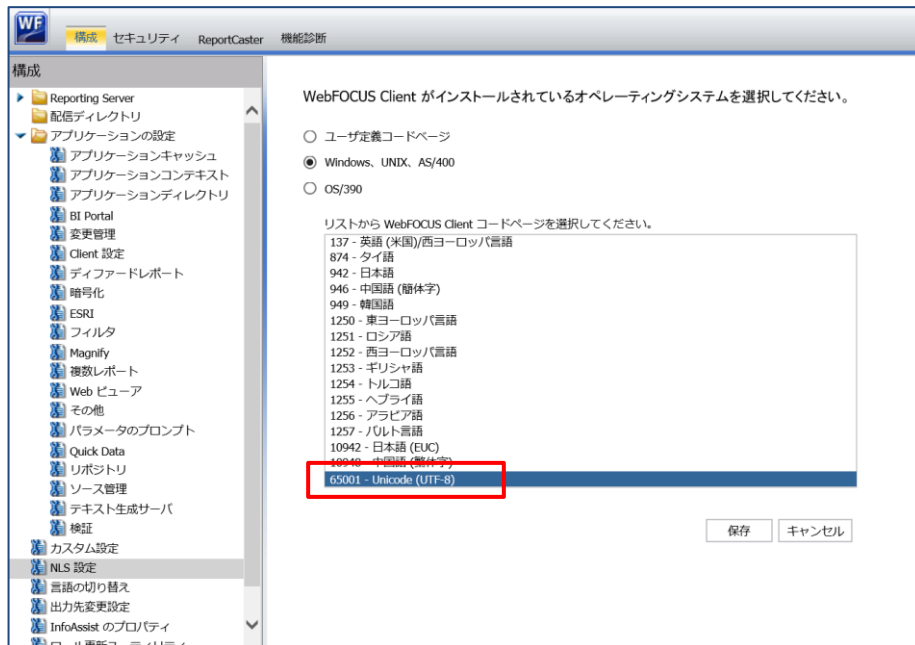
説明：

hostname:port

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

2. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。
管理コンソールが開きます。
3. メニューから[アプリケーションの設定] - [NLS 設定]を選択します。
4. コードページ[65001-Unicode(UTF-8)]を選択し、[保存]をクリックします。
5. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。



Tomcat の Unicode 構成

Tomcat のファイルエンコーディングを Unicode にするには、環境変数 LANG を UTF-8 に設定してから、Tomcat を起動してください。具体的には、以下のように環境変数を設定後に、Tomcat を起動します。

例： `$ export LANG=ja_JP.UTF-8`

また、ファイルエンコーディングの指定を CATALINA_OPTS から設定する場合は、次のように環境変数をセットします。

例： `$ export CATALINA_OPTS='-Dfile.encoding=UTF-8 -Duser.country=JP -Duser.language=ja'`

注意： 上記は、WebFOCUS Client と共にインストールされた Tomcat 9.0.48 での設定情報です。

以上で WebFOCUS の Unicode 構成は終了です。

ReportCaster の Unicode 構成

【事前確認】

ReportCaster を SJIS 環境で使用する場合はこの手順は必要ありません。

Application Server のプロセスを停止します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh`

Distribution Server のプロセスを停止します。

例 : `$ /<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/stopit`

【手順】

Distribution Server の起動ファイルを編集します

1. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

`/<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/schbkr`

2. 以下の設定を追加します。

`-Dfile.encoding=UTF-8`

指定例 :

```
#!/bin/sh
. /<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/classpath
"/<directory>/ibi/java/jdk8u292-b10/jre/bin/java" ${MAC_OPTS1} ${MAC_OPTS2}
-Dfile.encoding=UTF-8 -Dreportcaster.home=$DSINSTALL -
Dlog4j.configurationFile=file:$DSINSTALL/cfg/log4j2.xml -Dcaster.service=false -
DDSINSTALL_PROD=$DSINSTALL_PROD ibi.broker.SCHScheduler $DSINSTALL
$CMD_LINE_ARGS
```

※ご利用のメンテナンスリリースにより、schbkr の上記内容は実際の記述と異なる場合があります

3. 設定を追加後、ファイルを保存して閉じます。
4. Application Server（Tomcat 等）のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh`

5. Distribution Server（schbkr）のプロセスを起動します。

例 : `$ nohup /<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/schbkr &`

以上で ReportCaster の Unicode 構成は終了です。

Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成

【事前確認】

Resource Analyzer を使用しない場合はこの手順は必要ありません。

Resource Analyzer 用の日本語パッチは WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリに適用します。日本語パッチを適用する前に WebFOCUS Reporting Server をインストールしたディレクトリを確認してください。

WebFOCUS Reporting Server インストールディレクトリ:

例 : /<directory>/ibi/srv82

注意 : 日本語パッチを適用する際は、WebFOCUS Reporting Server を必ず停止してください。

パッチが含まれるインストールモジュールのディレクトリ ※DISK1, DISK2 に同じパッチが格納されています。

DISK1, DISK2: IBI/64bit/Server/patch_8207s

Resource Analyzer 日本語パッチの適用

1. パッチの適用に必要なファイルを、文字コード環境(SJIS、UTF8)に合わせて、WebFOCUS インストールユーザがアクセスできるディレクトリにコピーします。

例 : /<directory>/tmp/

(SJIS の場合) [ra_sjis.tar](#)

(UTF8 の場合) [ra_utf8.tar](#)

2. WebFOCUS をインストールしたユーザで Linux 環境にログインします。

3. パッチの適用を行うディレクトリに移動します。

例 : \$ cd /<directory>/ibi/srv82

4. tar ファイルを展開します。

文字コード環境 (SJIS、UTF8) に合致するファイルを展開します。

(SJIS の場合)

例 : \$ tar -xvf /<directory>/tmp/ra_sjis.tar

(UTF8 の場合)

例 : \$ tar -xvf /<directory>/tmp/ra_utf8.tar

Resource Analyzer の構成

注意： WebFOCUS 8.2.07 からは、Resource Analyzer の構成時には、「Resource Governor」と「Resource Analyzer」を選択することができますが、「Resource Analyzer」を選択してください。

1. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

http://hostname:port/

説明：

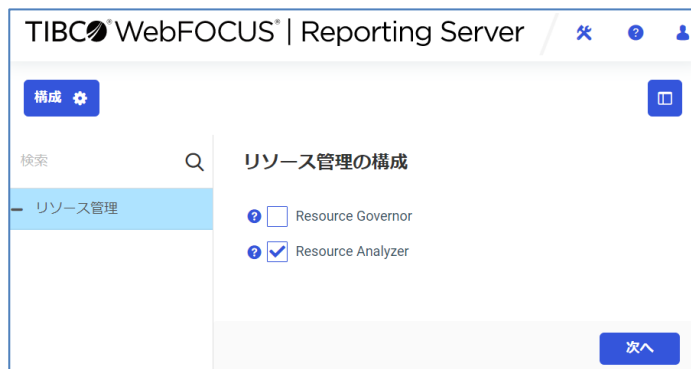
hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

2. 上部のツールメニューから[リソース管理]を選択します。
3. [構成]ボタンをクリックします。
4. 「Resource Governor」と「Resource Analyzer」の選択画面が表示されますので、ラジオボタンで「Resource Analyzer」を選択し、以降の設定を行ってください。



以上で Resource Analyzer 日本語パッチの適用と構成は終了です

オンラインヘルプの構成

WebFOCUS 8.2.07 を利用する前に、オンラインヘルプの構成が必要です。更新インストールの場合も実施する必要があります。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. オンラインヘルプファイルは WebFOCUS Client をインストールしたディレクトリに適用します。

WebFOCUS Client インストールディレクトリ:

例 : /<directory>/ibi/WebFOCUS82

2. Application Server のプロセスを停止します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh`

3. インストールメディア (DISK1) 内の IBI/64bit/Client に同梱されている、オンラインヘルプファイル ibi_help.war を /<directory>/ibi/WebFOCUS82/webapps 直下にコピーします (ファイルが存在する場合、上書きします)。

4. /<directory>/ibi/tomcat/conf/Catalina/localhost/ibi_help.xml をテキストで開きます。

※ibi_help.xml が無い場合には新規に作成してください

5. 以下のように設定します。

※<directory>は環境に合わせて変更してください

指定例 :

```
<?xml version='1.0' encoding='utf-8'?>
```

```
<Context docBase="/<directory>/ibi/WebFOCUS82/webapps/ibi_help.war"
path="/ibi_help">
```

```
</Context>
```

6. 設定後、ファイルを保存して閉じます。
7. /<directory>/ibi/tomcat/work/Catalina/localhost を削除します。
8. Application Server のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh`

9. WebFOCUS 管理コンソールにアクセスします。

http://hostname:port/ibi_apps/admin

説明：

hostname:port

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは hostname:8080 です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

10. ログイン画面が表示されますので、管理者権限を持つユーザでログインします。

11. 管理コンソールが開きます。

12. メニューから[アプリケーションの設定] - [アプリケーションコンテキスト]を選択します。

13. [ヘルプ]に「/ibi_help」と入力し、[保存]をクリックします。

14. 画面右上の[キャッシュのクリア]をクリックし、[OK]をクリックします。

以上でオンラインヘルプの構成は終了です。

Hyperstage の無効化

WebFOCUS 8.2.07 を新規にインストールした場合、Hyperstage の無効化が必要です。以下の手順に従って設定を進めてください。

【事前確認】

以前のバージョンで Hyperstage を未導入、もしくは無効にしている環境に対して WebFOCUS 8.2.07 を更新インストールする場合は、この手順は必要ありません。

1. WebFOCUS Reporting Server のプロセスを起動します。

例 : `$ /<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edastart -start`

2. Web コンソールにアクセスします。

ブラウザを起動し、次の URL にアクセスします。

`http://hostname:port/`

説明 :

hostname

WebFOCUS Reporting Server を実行しているマシンのホスト名または IP アドレスです。

port

インストール時に指定した HTTP ポートです。デフォルトは 8121 です。

3. 左のメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[通信-odin.cfg]を右クリックし、[編集]を選択します。
4. 表示される編集画面で、以下の HyperStage Database Server の指定をコメントアウトします。

```
;HyperStage Database Server
;NODE = HSSU
;BEGIN
;PROTOCOL = TCP
;CLASS = HSSERVER
;END
```

5. 設定後、保存します（WebFOCUS Reporting Server が再起動します）。
6. Web コンソールの左のメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される[構成ファイル]を展開し、[ワークスペース-edaserve.cfg]を右クリックし、[編集]を選択します。
7. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の指定をコメントアウトします。

```
[Adapters]
;hypg_data = /<directory>/ibi/HyperstagePG
;hypg_access = y
;hypg_home = /<directory>/ibi/srv82/home/hs
;hypg_tools = /<directory>/ibi/srv82/home/hs/bin
```

-
8. 設定後、保存します（WebFOCUS Reporting Server が再起動します）。
 9. Web コンソールの左のメニューから[ワークスペース]を選択し、画面左に表示される [構成ファイル]を展開し、[サーバプロファイル - edasprof.prf]を右クリックし、[編集]を選択します。
 10. 表示されるプロファイルの編集画面で、以下の指定をコメントアウトします。

```
-*ENGINE SQLHYPG SET BULKLOAD ON
-*ENGINE SQLHYPG SET CONNECTION_ATTRIBUTES CON1
'jdbc:postgresql://localhost:8124/webfocus'/admin,{AES}C4C9965503D50222144F289FF
1315F2C
-*ENGINE INT SET ETL-TRG-DBMS SQLHYPG/CON1
```

11. 設定後、保存します。
12. WebFOCUS Reporting Server のプロセスを停止します。

例： `$ /<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edastart -stop`

13. WebFOCUS Reporting Server のプロセスを起動します。

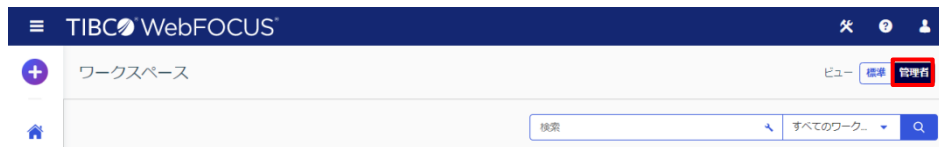
例： `$ /<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edastart -start`

以上で Hyperstage の無効化は終了です。

既存コンテンツのインデックス化

WebFOCUS 8.2.06 以前から更新インストールした場合、リポジトリに登録されたコンテンツを 8207 では検索できません。検索対象とするためには、既存コンテンツのインデックス化が必要です。以下の手順に従って設定を進めてください。

1. WebFOCUS ホームページに管理者でログインし、管理者ビューに切り替えます。



2. Web サービスページを開きます。

`http://hostname:port/ibi_apps/rs?IBIRS_action=TEST`

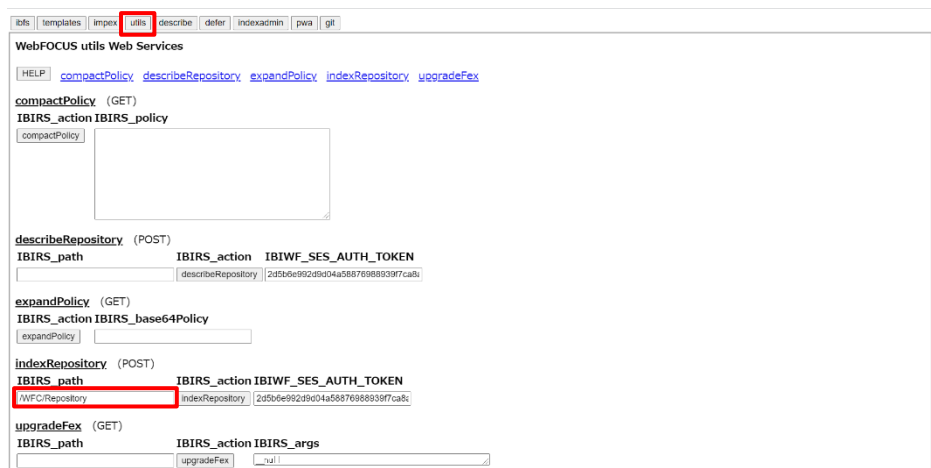
説明：

`hostname:port`

Web サーバまたは Application Server のホスト名および HTTP ポート番号です。

Tomcat のスタンドアロン構成では、デフォルトは `hostname:8080` です。SSL を使用する必要がある場合は、「http」の代わりに「https」と入力します。

3. Web サービスページの [utils] ボタンをクリックし、[indexRepository/IBIRS_path] テキストボックスに、/WFC/Repository と入力します。

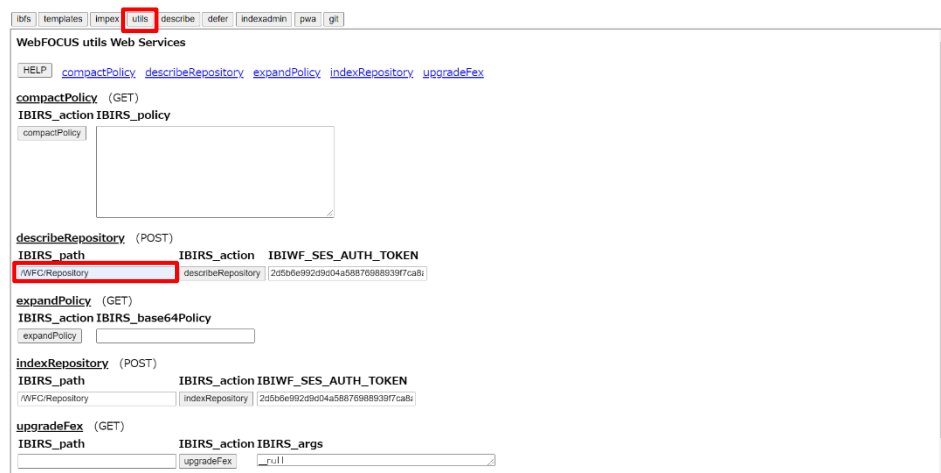


4. [indexRepository] をクリックして、処理を終了します。

新しいウィンドウセッションが開き、実行結果が表示されます。以下のコードはその例です。

```
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="ja_JP" name="indexRepository"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
  <ibfparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/WFC/Repository"/>
  </ibfparams>
  <rootObject _jt="string" value="Indexer Count of paths indexed:573"/>
</ibfsrpc>
```

5. Web サービスページの[utils] ボタンをクリックし、[describeRepository/IBIRS_path] テキストボックスに、/WFC/Repository と入力します。



6. [describeRepository] をクリックして、処理を終了します。

新しいウィンドウセッションが開き、実行結果が表示されます。以下のコードはその例です。

```
<ibfsrpc _jt="IBFSresponseObject" language="ja_JP" name="describeRepository"
returncode="10000" returndesc="SUCCESS" subreturncode="0" type="simple">
  <ibfparams size="1">
    <entry key="IBIRS_path" value="/WFC/Repository"/>
  </ibfparams>
  <rootObject _jt="string" value="Processed count: 219. Described count: 212. Have
parameters count: 63. Non writable files skipped: 0"/>
</ibfsrpc>
```

7. WebFOCUS 管理コンソールのメニューバーの [キャッシュのクリア] をクリックし、確認メッセージで [OK] をクリックします。
8. WebFOCUS からログアウトし、再度 WebFOCUS にログインします。

以上で既存コンテンツのインデックス化は終了です。

Java 更新後の設定変更

【事前確認】

WebFOCUS 新規インストール時に使用している Java を更新する場合、新しい Java のインストール後に、Distribution Server、Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイル、および設定ファイルの変更が必要です。

設定変更をする前に、各サーバプロセスを停止します。停止するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

【手順】

Distribution Server の起動停止ファイル変更

1. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

```
/<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/schbkr
```

2. Java の導入先ディレクトリが記述された箇所を変更します。 ※<directory>は実際の環境に合わせて指定ください。

指定例：

```
"/<directory>/ibi/java/jdk8u292-b10/jre/bin/java"
```

設定を変更後、ファイルを保存して閉じます。

3. 以下のファイルをエディタで開きます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

```
/<directory>/ibi/WebFOCUS82/ReportCaster/bin/stopit
```

4. Java の導入先ディレクトリが記述された箇所を変更します。 ※<directory>は実際の環境に合わせて指定ください。

指定例：

```
"/<directory>/ibi/java/jdk8u292-b10/jre/bin/java"
```

5. 設定を変更後、ファイルを保存して閉じます。

Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイル変更（Tomcat、Derby はご利用の場合のみ変更）

1. Distribution Server の起動停止ファイルと同様に、Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイルの Java の導入先ディレクトリが記述された箇所を変更し、保存して閉じます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

Tomcat 起動停止ファイル：

```
/<directory>/ibi/tomcat/bin/startup.sh
```

```
/<directory>/ibi/tomcat/bin/shutdown.sh
```

Derby 起動停止ファイル :

/<directory>/ibi/derby/bin/start.sh

/<directory>/ibi/derby/bin/stop.sh

Solr 起動停止ファイル :

/<directory>/ibi/WebFOCUS82/Solr/start_solr_linux.sh

/<directory>/ibi/WebFOCUS82/Solr/stop_solr_linux.sh

設定ファイルの変更（設定ファイルに Java のパスが存在する場合のみ変更）

1. Distribution Server の起動停止ファイルと同様に、設定ファイルの Java の導入先ディレクトリが記述された箇所があれば変更し、保存して閉じます（編集前にバックアップの取得をお勧めします）。

設定ファイル :

例 : ~/.bash_profile

/<directory>/ibi/srv82/wfs/bin/edaenv.cfg

以上で Java 更新後の設定変更は終了です。

WebFOCUS の利用を再開する場合、各サーバプロセスを開始します。開始するプロセスおよびコマンドについては、『サーバプロセスの起動停止』をご参照ください。

WebFOCUS App Studio の新規インストール

【事前確認】

WebFOCUS App Studio は更新インストールが不可です。新規インストールを実施してください。

以前のバージョンをインストールしている場合、該当バージョンのインストールガイドに従ってアンインストールを行ってください。

WebFOCUS App Studio は OS の管理者権限を持つユーザでインストールを実施してください。

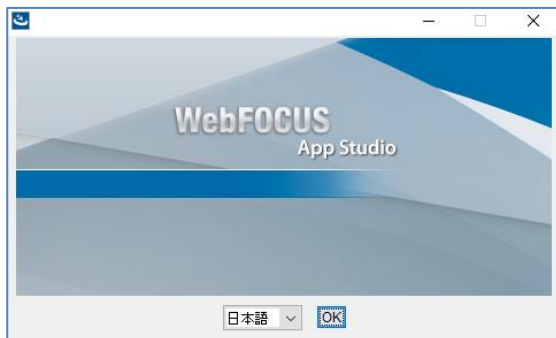
WebFOCUS App Studio は下記ディレクトリにインストールします。C ドライブ以外にインストールする場合には、インストール手順中の「インストール先の選択」で、ドライブレター部分を変更してください。

【WebFOCUS AppStudio インストールディレクトリ】

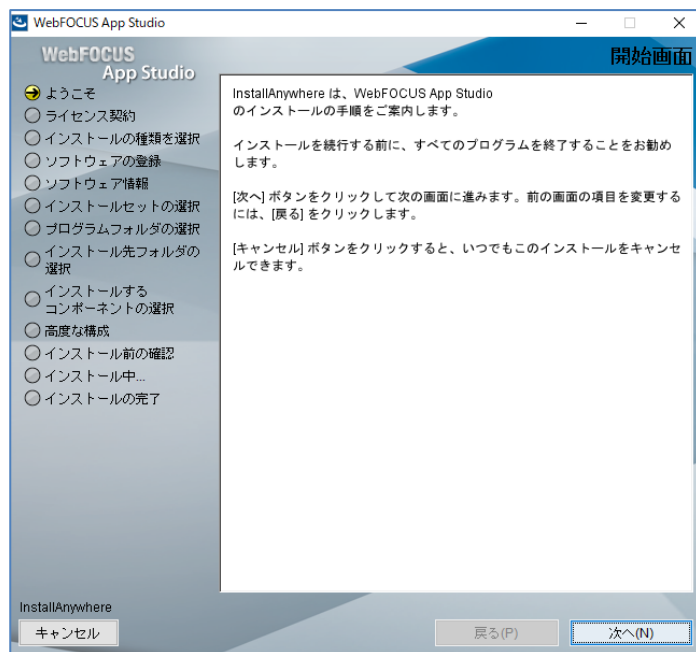
例：C:\ibi\¥AppStudio82

以下の手順で WebFOCUS App Studio のインストールを行ってください。

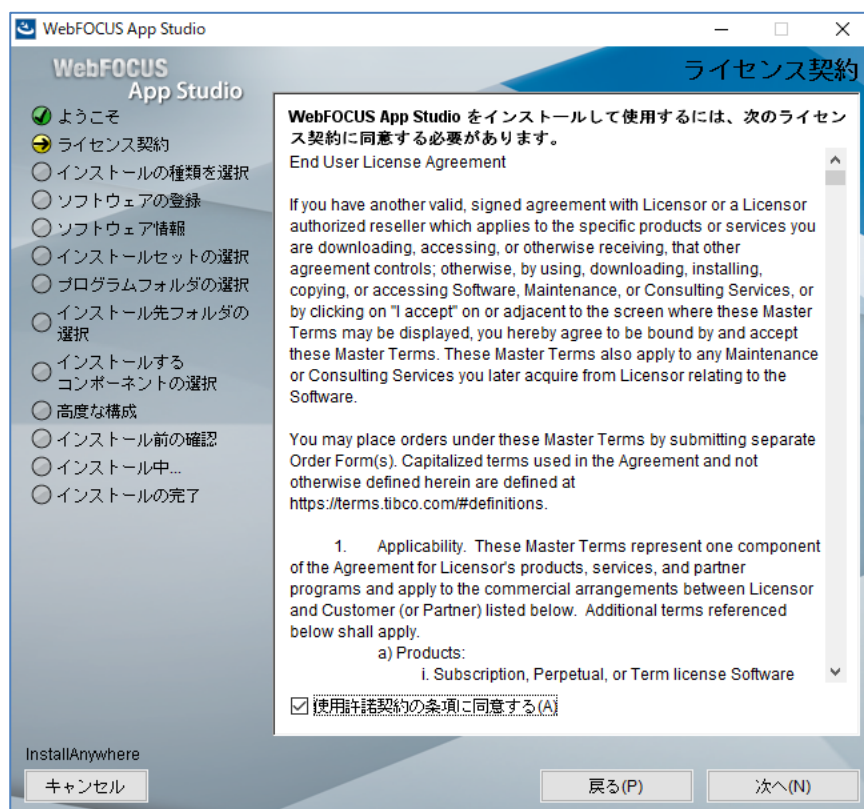
1. [IBI¥64bit](#) ディレクトリにある [TIB_wf-as_8207.28.05_win_x86_64.exe](#) をダブルクリックします。
2. 言語を選択する画面が表示されますので、適切な言語を選択し、「OK」をクリックします。



3. インストールの開始画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



4. 「ライセンス契約」画面が開きますので、「使用許諾契約の条項に同意する」にチェックをし、「次へ」をクリックします。



5. 「ユーザ名」と「会社名」を入力し、「次へ」をクリックします。

WebFOCUS App Studio

WebFOCUS App Studio

ソフトウェアの登録

- ☒ ようこそ
- ☒ ライセンス契約
- ☒ インストールの種類を選択
- ☒ ソフトウェアの登録
- ☐ ソフトウェア情報
- ☐ インストールセットの選択
- ☐ プログラムフォルダの選択
- ☐ インストール先フォルダの選択
- ☐ インストールするコンポーネントの選択
- ☐ 高度な構成
- ☐ インストール前の確認
- ☐ インストール中...
- ☐ インストールの完了

ユーザ名と会社名を入力してください。

ユーザ名:

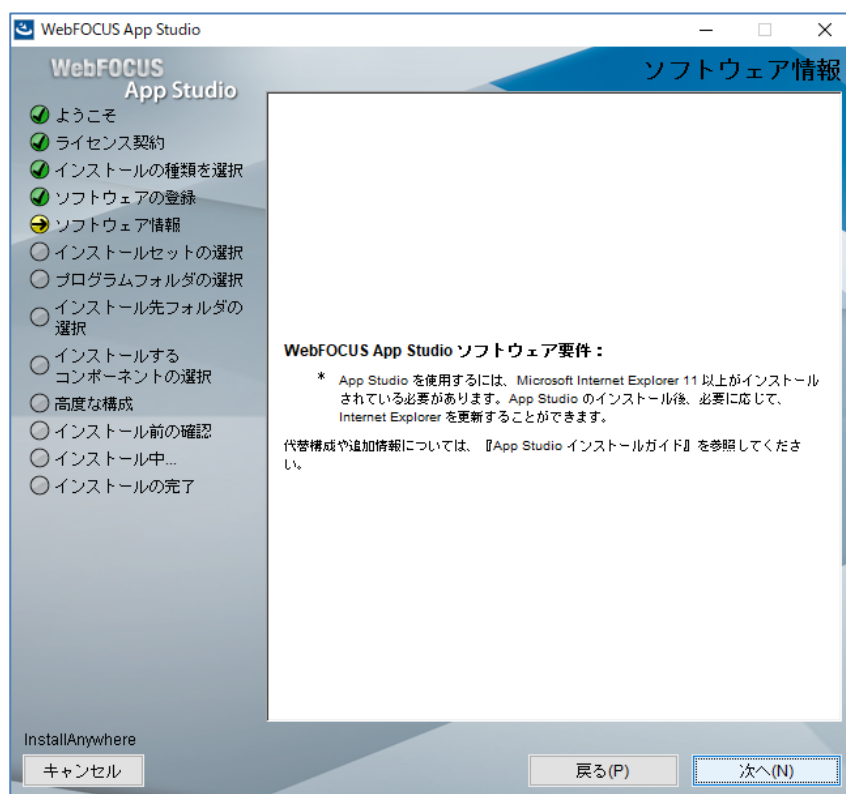
会社名:

InstallAnywhere

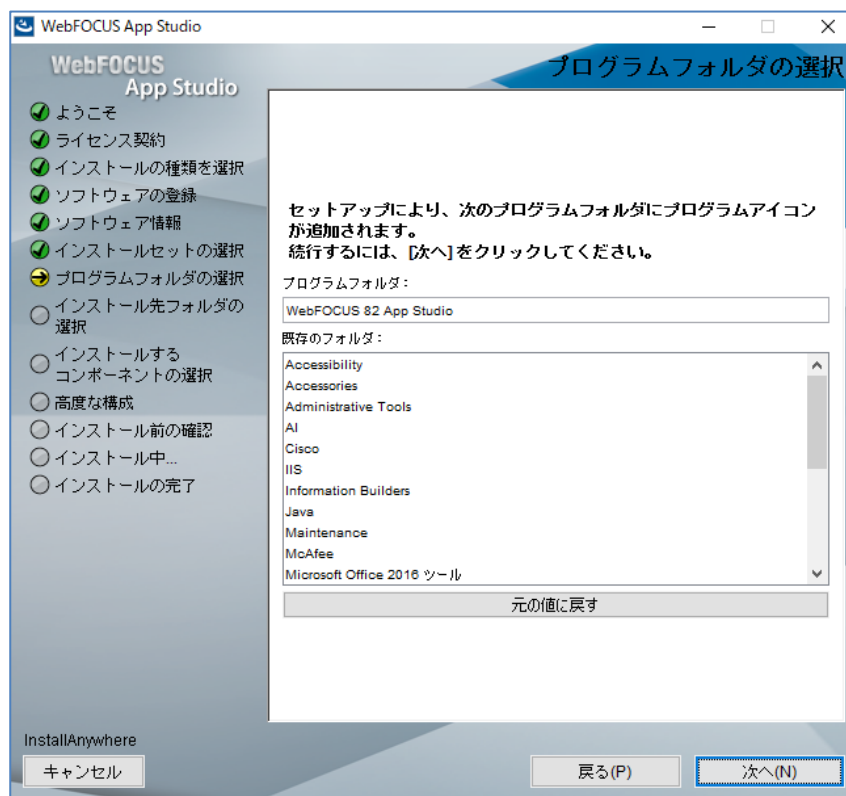
キャンセル

戻る(P) 次へ(N)

6. 「ソフトウェア情報」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。

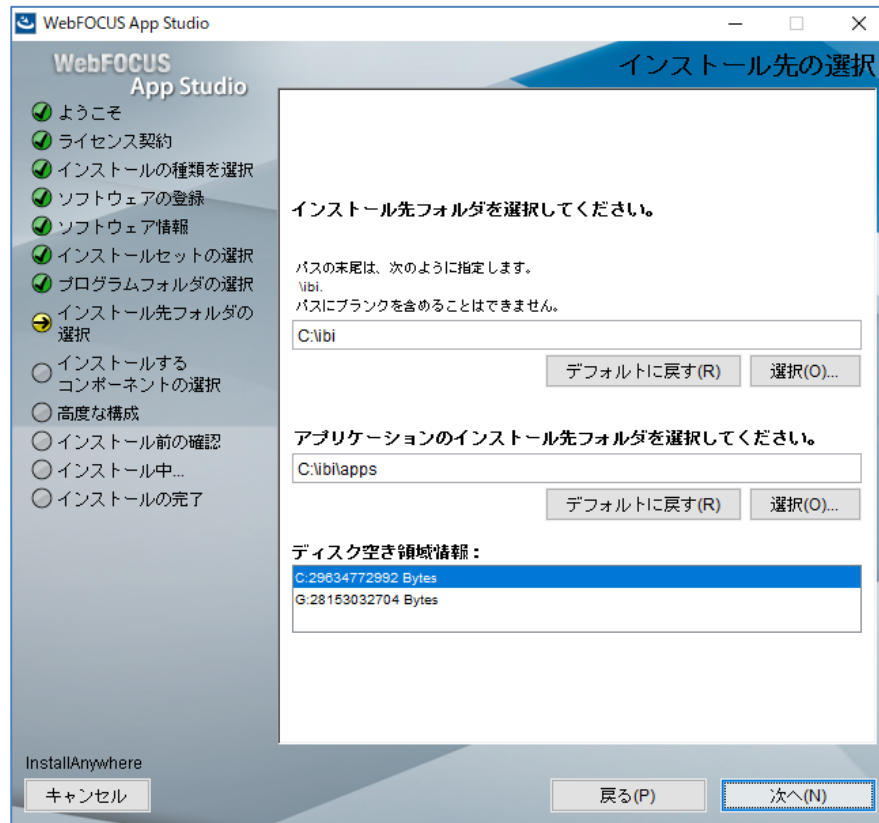


7. 「プログラムフォルダの選択」画面で、「次へ」をクリックします。



8. 「インストール先の選択」画面で下記を指定し、「次へ」をクリックします。

設定項目	チェック	設定値	備考
インストール先フォルダ		C:\ibi	※要件に合わせて変更可
アプリケーションの インストール先フォルダ		C:\ibi\apps	※要件に合わせて変更可



9. 「インストール前の確認」画面が開きますので、内容を確認し、「インストール」をクリックします。インストールが開始されます。

10. 「インストールの完了」画面が開きますので、「完了」をクリックします。

以上で WebFOCUS App Studio のインストールは終了です。

メディアに同梱される Java バージョンについて

8.2.07.28 では OpenJDK Runtime Environment (AdoptOpenJDK) build1.8.0_292-b10 (8u292) が同梱されています。

メンテナンスリリースの適用にあたって、Java を更新する場合は、ReportCaster Distribution Server、Tomcat、Derby、Solr の起動停止ファイルおよび設定ファイルを編集する必要があります。手順は、『Java 更新後の設定ファイル変更』をご参照ください。

メディアに同梱される Tomcat バージョンについて

8.2.07 では Apache Tomcat 9.0.48 が同梱されています。新規導入時は、インストールにより自動構成されます。更新インストールにおいては Tomcat のバージョンアップはされませんので、必要に応じて当該バージョンの Tomcat をインストール、構成の上ご使用ください。

WebFOCUS に使用する他社製コンポーネントについて

インストールプログラムには、Tomcat、Derby、Solr、メディアには AdoptOpenJDK の他社製コンポーネントが含まれています。導入後に発表された新たなセキュリティ上の脆弱性など一部の問題を解決するために、新しいバージョンへのアップグレード等別途対応が必要となる場合があります。他社製コンポーネントのバージョンについての詳細は、『WebFOCUS リリースノート Version8.2.07』および各ベンダーサイトをご確認ください。

WebFOCUS リリースノートについて

『WebFOCUS リリースノート Version8.2.07.28』には利用される環境によって必要な設定および注意点が記載されています。WebFOCUS をご利用の前に必ずご一読ください。

リリースノートは AWSC（アシストサポートサイト）からダウンロードしていただくことができます。

以上